

永 生 病 院 だ よ り



KEIRYOKAI

ゆるめな

vol. 16 2009

- ▶ 理事長のあいさつ
- ▶ 日本慢性期医療学会浜松大会に参加
- ▶ 当院の退院前訪問への取り組み
- ▶ 健康ひろば「夏風邪について」
- ▶ 編集後記



病院理念

- 信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

基本方針

- 良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
- 患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
- 医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

●理事長のあいさつ

木々の緑が深くなり、真夏の日差しが強い時期となりました。

6月23日の臨時閣議で、「経済財政改革の基本方針2009」（骨太方針09）が決定されました。焦点の来年度予算の方向については、社会保障費2200億円の抑制方針を事実上撤回し、実質的に毎年度1兆円近く伸びる自然増を認める形となりました。

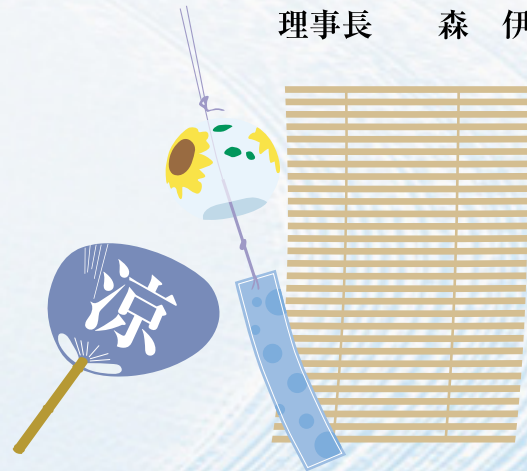
医療費抑制についてこれまでの経緯をみますと、1990年度には国税収入は60兆円あったけれど、2003年度には43兆円にまで落ち込み、2008年度で53兆円にまでしか回復していません。一方、歳出は1990年度69兆円、税収が最低であった2003年度は82兆円、2008年度で83兆円です。財務省は歳出と歳入のギャップを埋めるため、確実に自然増を伴う社会保障費をターゲットとし、とくに大口の医療費が狙われることとなります。そして、2006年度の経済財政運営方針で社会保障費を5年で1兆1000億円圧縮することが決められ、それに基づいて医療費抑制策がとられてきました。その結果種々のひずみが生じ、現在の「医療の崩壊」を来した結果となりました。

OECD諸国において、日本は高齢化率がトップであるのに租税社会保障負担率は、下位より4番目です。また、他国と比べて医療従事者が圧倒的に少ないのに、ここ数年マンパワーを増やすことなく、平均在院日数を短縮する政策がとられ、病床利用の回転を高めたため、医師はじめ医療従事者の仕事

量が莫大に増えることとなりました。同時に一方で、医療安全対策が叫ばれるため、現場では医療従事者が疲弊してしまう結果になっています。医療、介護等の現場では、医師はじめ各医療従事者が前向きな熱い気持ちを持って仕事ができるよう、身体的にも経済的にも余裕のある体制づくりが望まれます。是非、今回の見直しがこのような方向性で行われることを期待したいものです。

6月25日～26日浜松にて、慢性期医療学会が開催され、全国より質の高い医療サービスを提供するために努力している演題の発表が沢山みられました。当法人からも2演題発表し、自らの仕事の意義を見直す良い機会となりました。我々医療従事者にとっては、目の前の患者さまが回復され、より良い状態になり喜んでいただけることは、まさにパワーの源となります。医療・介護の仕事には、素晴らしいやりがいがあります。現在の状況が早く見直され、医療・介護の仕事を希望する若い人材が増えるよう期待します。

理事長 森 伊津子



●日本慢性期医療学会浜松大会に参加

平成21年6月25日（木）26日（金）静岡県で開催された、第17回日本慢性期医療学会浜松大会に参加しました。居宅介護支援事業所いこいの郷より『退院後のリスクに視点をのいたケアマネジメント～入院中から在宅支援を行って～』通所介護いこいの家より『自立支援に向けた通所介護での取り組み』というテーマで発表しました。



私達が学会発表してきました。

当院の退院前訪問への取り組み

入院された患者様を在宅復帰へと進める中で大切な事は、身体的機能の回復を図ると同時に退院後の生活をみこして患者様のご自宅の生活環境を整備し、安心して復帰出来るように支援する事です。退院された患者様から入院中と比べて「家ではうまく出来ない」「不便だ」と聞かれる事は決して少なくありません。今まで慣れ親しんだ環境であるとはいっても、日本家屋に特徴的な和室(畳)、敷居・上がりかまち、和式便所、深い浴槽などのある家庭環境は足・腰の弱った方にとっては決して住みやすい環境であるとは言えないからです。退院後、患者様に安心・安全に在宅生活を営んで頂くために、身体的レベルに応じた環境設定・事前の動作確認などの準備は必要不可欠といえます。

そこで当院では「退院前訪問」という形で入院中より基本的に2回、患者様宅への訪問を行っています。1回目の訪問は入院早期に行い、ご自宅の家屋環境・生活状況の把握を目的とします。2回目の訪問は患者様にも同行して頂き、ご自宅での日常生活動作の確認やご家族への介助方法の指導を行います。必要に応じて住

宅改修も検討します。退院後利用する介護保険のサービスについても患者・家族を交えた話し合いを行い計画しています。そこには担当の看護師・理学療法士・作業療法士・ケアマネジャーが同行し、「手すりはどこにつければいいのか?」「使いやすい福祉用具はどれか?」「お風呂に入れてくれるサービスは?」「介護保険をどのように使えば経済的負担が少ないか?」といった様々な疑問に対し各専門的な視点からご相談させて頂いています。

そして訪問後にはこれらの結果について、主治医をはじめとした病棟スタッフと話し合う場を設けています。これは情報をスタッフ間で共有化する事により、患者様の課題や問題点に対して効率の良い質の高い医療を提供する事ができると考えているからです。

患者様の個々の状況に適したより暮らしやすい生活へ戻られるように支援する事ができればと職員一同努めています。気になる点や分からない事がありましたら、些細な事でも構いませんのでどうぞお気軽にスタッフへご相談下さい。

平成20年度 退院前訪問実施件数	1回目退院前訪問	2回目退院前訪問	合計
一般病棟	59件	16件	75件
介護療養病棟	6件	—	6件
合計	65件	16件	81件

退院前訪問には、多職種のスタッフが同行しています。



「冬風邪」と同様に「夏風邪」も免疫力が低下した身体にウイルスが侵入して感染します。夏風邪の症状は、下痢・発熱・のどの痛みが特徴となります。また、夏風邪は冬の風邪に比べ、ゆっくり発症し、治るまでに時間がかかると言われています。

夏風邪の予防法

1 タオルは清潔な物を使う

夏風邪ウイルスは湿った所が大好きなので、手や顔を拭いたタオルを伝って感染していく恐れがあります。よってタオルは日干しをし、紫外線でウイルスを殺して清潔な物を使いましょう。

2 部屋を冷やし過ぎない

温度差のある場所を出入りすると、自律神経の働きが鈍くなり温度変化についていけなくなり免疫力が低下します。

3 部屋の湿度に注意!

洗濯物を部屋に干すと湿度が上がるので、外や風呂場(換気扇を回す)に干すなどの工夫をしましょう。

4 睡眠をとり、十分に身体を休める

質の良い睡眠は免疫力を高めます。身体を休ませると言っても、ただ横になってダラダラと過ごすのではダメです。



その他、夏風邪予防で最も大切となる事は
うがい・手洗いを徹底的に行いウイルスを洗い流す事が大切です!

【編集後記】

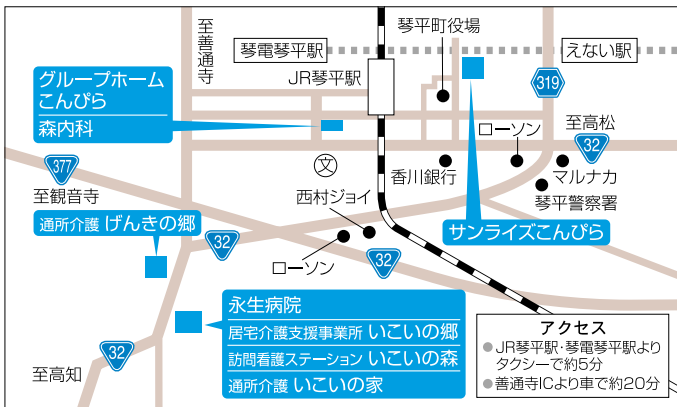
稲の上を通り過ぎる風が葉を揺らす様子は、とてもきれいで涼しげに見えますが、暑い日が続いています。

先日、日本医療機能評価の更新審査が終わり、また新しい目標ができました。医療サービス改善委員会もさらに信頼していただけるよう一丸となって取り組んでゆきたいと思えます。

夏の暑さに負けず、お体ご自愛ください。



日本医療機能評価の更新審査



医療法人 圭良会

● 永生病院	香川県仲多度郡まんのう町買田221-3 Tel 0877-73-3300
● いこいの森 (訪問看護ステーション)	Tel 0877-73-3700
● いこいの家 (通所介護)	Tel 0877-73-3718
● いこいの郷 (居宅介護支援事業所)	Tel 0877-73-3655
● げんきの郷 (通所介護)	仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811
● 森内科	香川県仲多度郡琴平町1167 Tel 0877-73-4188
● グループホームこんびら (認知症高齢者グループホーム)	Tel 0877-73-0811
● サンライズこんびら (小規模多機能型居宅介護)	香川県仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1 Tel 0877-58-8600



永生病院 130床(一般病棟 40床・療養型病棟 90床)

永生病院広報誌「ゆるぬき」第16号

発行元：医療法人 圭良会 永生病院

編集者：医療サービス改善委員会

住所：〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田221-3

TEL:0877-73-3300

FAX:0877-73-3202

永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>

eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp

発行年月日：平成21年8月1日